



京都市
CITY OF KYOTO

HERALBONY



一澤信三郎帆布

京都市×ヘラルボニー×一澤信三郎帆布 コラボ新商品 記者発表会

令和6年7月26日(金)14時～14時30分

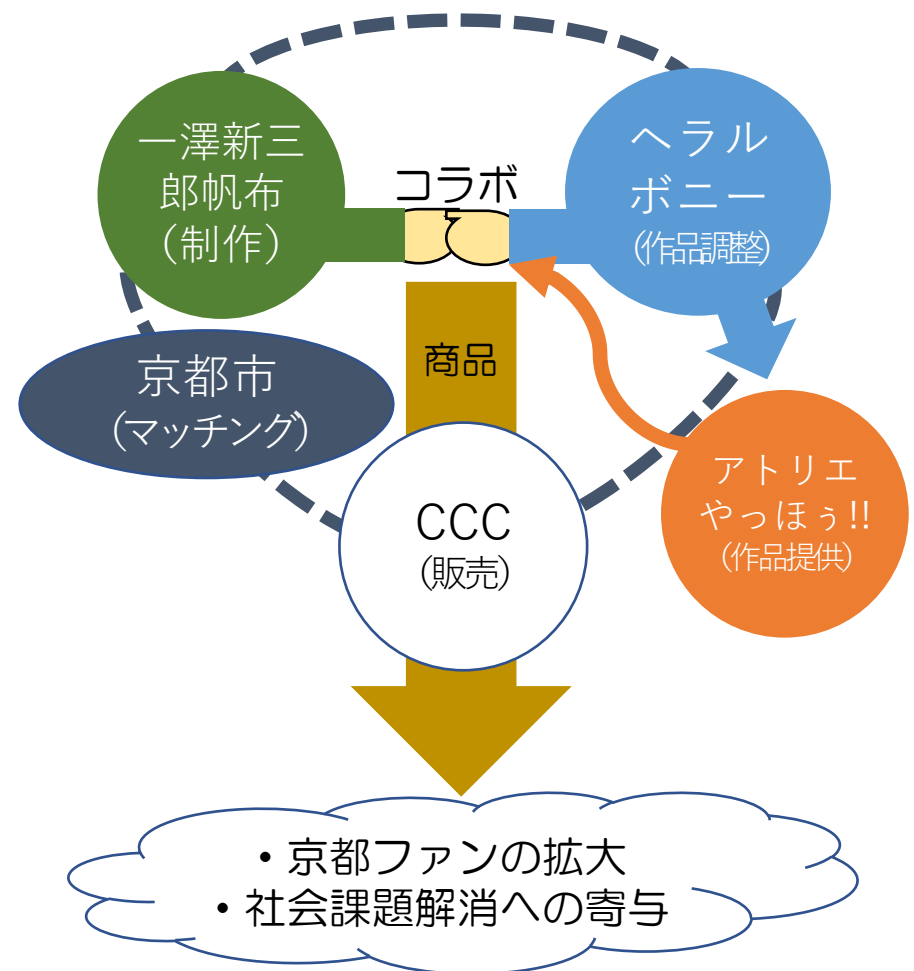
コラボ商品の制作について

●この度、京都市が実施する「京都館」の取組として、障害のある作家のライセンスビジネスに取り組むヘラルボニー(P.10)と京都の伝統産業品である帆布製カバンの「一澤信三郎帆布」(P.12)とをマッチングし、ヘラルボニーに作品を提供する「アトリエやっほう!!」(P.11)所属作家の作品を帆布製カバンにプリントした商品を作りました。

●さらに、本取組に共感いただいたカルチュア・コンビニエンス・クラブ(P.12)の京都の店舗にて販売します。

●本市は、本取組を通じて、伝統産業品などの京都産品の魅力を改めて多くの方に知っていただくとともに、全ての人に「居場所」と「出番」のあるまちづくりを進めています。

■連携イメージ



京都館について

●「京都館」は、放送作家の小山薫堂氏を館長に迎え、新たな京都ファンの獲得や、京都の産業振興に繋げることを目的に、ホームページやYouTubeチャンネル、民間企業とコラボしたイベントなどを通じて、京都情報を発信する京都市の取組です。

●「京都館」の取組の一環として、伝統産業等の京都産品を印象的にPRする観点で、斬新な商品開発にも挑戦しています。これまでに、京和傘をビニールで制作した「ビニール和傘」や、100年以上の歴史がある京都の老舗だけを集め、各店の歴史やエピソードを読み札にした「京都100年かるた」などを制作しています。

京都館館長 小山 薫堂氏

放送作家。脚本家。1964年熊本県生まれ。日本大学芸術学部放送学科在籍中に放送作家としての活動を開始。「料理の鉄人」「カノッサの屈辱」など斬新なテレビ番組を数多く企画。映画「おくりびと」で第32回日本アカデミー賞最優秀脚本賞、第81回米アカデミー賞外国語部門賞を獲得。執筆活動の他、京都芸術大学副学長、下鴨茶寮主人、2025年大阪・関西万博のテーマ事業プロデューサーなどを務める。「くまモン」の生みの親でもある。



創業160年の和傘メーカーである日吉屋との共同開発



かるたの老舗「京都 大石天狗堂」との共同開発

コラボ商品・作家について

- 「アトリエやっほう!!」在籍の5名の作家による絵画作品を、帆布製カバンにプリントし、制作(5種)。

【参加作家】 吉田裕志/木村全彦/国保幸宏/南保孝/肥後深雪

- 展示販売終了後は、全国の皆様にも手に取っていただけるよう、ふるさと納税の返礼品として出品予定(秋頃)。

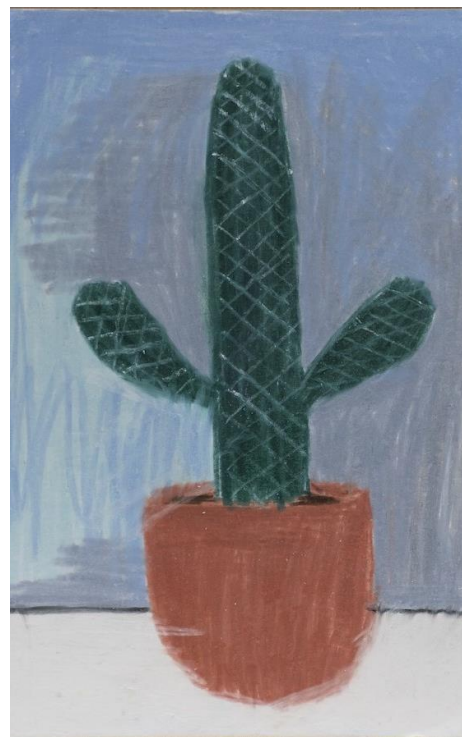
販売期間	令和6年7月29日(月)～8月18日(日) ※京都岡崎 蔦屋書店は19日(月)まで
販売場所	京都 蔦屋書店、京都岡崎 蔦屋書店
販売点数	各店舗各種10点
金 額	20,900円(税込)
サイズ	縦35cm×横最大36cm×マチ9cm 持ち手の長さ約58cm 重さ 約390g
素材	綿帆布



※各種カバン内側にポケット付き

参加作家について

吉田 裕志 Yoshida Hiroshi <作品名:サボテン>



元々陶芸を中心に活動され、2014年から作画も本格的に始める。最初はオイルパステル中心で動物を描かれていたが、風景や街、人物など幅広いテーマを描くようになるにつれて色鉛筆に変わっていった。写真をよく見て描いているが実際の色より鮮やかでポップな色になるのが特徴。特に人物はどんな人も陽気でユーモラスに仕上がり、観る人を楽しい気持ちにさせてくれる。

木村 全彦 Kimura Masahiko <作品名:写楽3>



独自に生み出した楔形文字のような筆致（通称「キュニキュニ」）は、豊かな色彩とともに緻密に配され、心地よい輪郭の歪みの中に立体的な奥行きを創り出している。そのあまりの臨場感に、これらが写真のなかの平面的なモチーフを見て描かれたとはにわかに信じ難い。好きなテレビ番組のナレーションを呟きながら、普通の画用紙であれば破れてしまうほどの力強い筆圧と物凄いスピードでぐいぐいと描く。作品は国内外で評価されているが、当の本人は外界の雑音に無頓着。

国保 幸宏 Kokubo Yukihiro <作品名:イチゴのショートケーキ>



時に独特の不思議なメロディーの歌を口ずさみながら力強く作画される国保さん。彼の描く絵はもちろん、その不思議な、ちょっぴり哀愁漂うメロディーにも心惹かれてしまう。オイルパステルやアクリル絵具を大胆に使い、描いては上描きを繰り返すので何層にも重なった絵はずっしりとした重みがある。

南 保孝 Minami Yasutaka

<作品名:焼肉>



10年くらい前から創作活動を始め、一番沢山描いたモチーフは「かお」。自分や身近な人の顔で紙面いっぱい埋め尽くす。丸にしても他の形にしても、とにかくとにかく、紙いっぱいに。ゆっくりじっくり数か月かけて。もしかしたら南さんにとっては「何かの絵を描く」という事よりも、「画面を埋めていく」という行為そのものの方が価値があるのかもしれない。

肥後 深雪 Higo Miyuki <作品名:まる2>



アトリエやっほう!!ではみんなのお姉さんの存在で、その時の気分で色鉛筆、水彩絵具、刺繍糸などを使い分けて自由な作品制作をしている。作品に登場する生き物や植物は可愛らしいものから作者本人にもわからない不思議なものまで様々。どの作品も優しさがにじみ出るカラフルな世界が広がっている。

関係各社について

ヘラルボニー

HERALBONY



株式会社ヘラルボニー / HERALBONY Co., Ltd. (岩手県盛岡市)

「異彩を、放て。」をミッションに掲げ異彩作家とともに、新しい文化をつくるアートエージェンシー。国内外の主に知的障害のある作家の描く2,000点以上のアートデータのライセンスを管理し、様々なビジネスへ展開。支援ではなく対等なビジネスパートナーとして、作家の意思を尊重しながらプロジェクトを進行し、正当なロイヤリティを支払う仕組みを構築している。

様々な形で「異彩」を社会に送り届けることで、「障害」のイメージを変え、80億人の異彩がありのまに生きる社会の実現を目指す。

世界の有望なスタートアップ企業を表彰する「LVMH イノベーションアワード2024」で賞を受賞（日本企業初）するなど、取組は国内外から支持を得ている。



アトリエやっほう!!



アトリエやっほう！！（伏見区）

知的障害のある方が通所する京都市ふしみ学園（生活介護施設）にて創作活動を行うグループ。2008年、軽作業に取り組むことが難しい方の療育目的で創作活動を開始。

メンバー一人ひとりが楽しく落ち着いて過ごす事ができる事を第一に考え、各々の得意な事や特性を活かした創作活動ができるよう支援。多彩なメンバーが集まって創作活動に取り組み、国内各地や海外の展覧会に出品するなど活動の幅を広げている。

作品を展示する事で社会参加に繋がり、メンバーの事を知っていただくことで障害者への理解を深める場となるよう展示機会の創出を行っている。

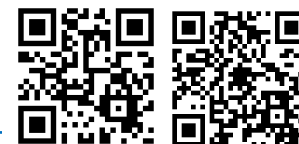




一澤信三郎帆布（東山区）

創業1905年の京都・老舗帆布かばん店。特別に織られた良質な帆布を使って、100年以上変わらない、職人の手仕事による「手間ひまを惜しまない」かばんづくりを続ける。「京都で作って、京都で売る」をモットーに、自分たちの目の届く範囲で、丁寧なものづくりをし「使い手の顔の見える商い」を行っている。

京都 蔦屋書店/京都岡崎 蔦屋書店



アート分野の市場開拓や、魅力的なコンテンツの提案を通じたアートシーンの活性化などに取り組むカルチュア・コンビニエンス・クラブが運営（京都 蔦屋書店はカルチュア・コンビニエンス・クラブ、高島屋、東神開発の合併会社「TTC LIFESTYLE」による運営）。

京都 蔦屋書店（下京区京都高島屋S.C.内）では、アート関連の書籍や文具、工芸品を多数取り揃えるほか、アート作品を展示するなど、アートと文化の「伝統と最先端」が共振する場を創出。

京都岡崎 蔦屋書店（左京区ロームシアター京都内）では、アート・日本文化の魅力を国内外に表現し伝える書店として、本や雑貨を扱うほか、アートのスペースも併設する。

本件に関する問合せ先

○京都館プロジェクト、記者発表会、商品化に関すること
京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室
保田・北河 075-222-3306

○アート作品に関すること
株式会社ヘラルボニー 広報室 pr@heralbony.co.jp

○展示販売に関すること
・京都 蔦屋書店 石井 075-606-4525
・京都岡崎 蔦屋書店 前村 075-754-0008